

第145回 学長定例記者会見

日時：令和4年5月20日（金）11：00～11：30

場所：広島大学 霞キャンパス 臨床管理棟3階 大会議室

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTubeによる録画配信を実施

【発表事項】

1. アフガニスタンから日本に退避する元本学留学生と家族の受け入れ、支援のためクラウドファンディングを開始
2. クラウドファンディングにより作成した「被爆者スライド標本データベース」を公開します
3. 大学病院にメラノーマ治療センターとゲノム医療センターを新設

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和4年6月下旬

場所： 広島大学 東広島キャンパス

令和4年5月20日

**アフガニスタンから日本に退避する元本学留学生と
家族の受け入れ、支援のためクラウドファンディングを開始**

広島大学では、今月（5月）末から、現在アフガニスタンに帰国している元本学留学生（元留学生）の受け入れを開始します。支援対象者は、元留学生15人及びその家族を含め74人の予定で、支援規模は日本最大級となります。

昨年（2021年）8月以降、広島大学で学び、現在アフガニスタンに住む元留学生から、日本への退避を希望する連絡が広島大学へ多数寄せられました。

これを受け、広島大学では彼らの退避を支援することを決定し、現地の情報収集を続けてきたところ、今年（2022）年3月ごろから、アフガニスタンからの国外退避が比較的容易になった情報を得ましたので、受け入れ手続きに着手しました。

元留学生の受け入れにあたっては、広島大学の他、関係機関（東広島市、広島県、JICA 中国、ひろしま国際センター及びユニタール広島）の協力を得て「チーム広島」を形成して、地域全体で、本学で学修した高度人材の受け入れを行う新たな挑戦です。

元留学生を受け入れるにあたり、多額の資金が必要となることから、「クラウドファンディング」を来週23日（月）から6月30日まで行う予定です。最終目標金額は1,000万円です。元留学生の支援をより確実なものにしていくため、皆様のご理解、ご支援よろしくご願ひいたします。

（詳細は別添資料1ページ目をご覧ください）

【お問い合わせ先】

国際室

グローバル化推進室 梅下

TEL:082-424-2028 FAX:082-424-6179

寄付金控除型 #社会にいいこと #国際協力 #人権 #難民 #寄付金控除型 #大学

アフガニスタンから日本に退避する修了生と家族の国内最大級の受入支援

広島大学



寄付総額

0円

目標金額 1,000,000円

0%

寄付者 残り

0人 38日

フォローする

最初の寄付者になりませんか？

プロジェクトの寄付にすすむ

シェア

ツイート

LINEで送る

noteで書く

プロジェクト本文

アフガニスタン情勢の緊迫化を受け、広島大学は、現地在住の本学修了生を給費教員・職員として6か月間受入れ、修了生の安全を保護します。



広島大学理事・副学長（国際担当）の金子 慎治です。これまで数多くのアフガニスタンからの留学生を受け入れてきた広島大学では、アフガニスタンに住む本学の修了生の安否確認を行い、アフガニスタンの人たちにどのような支援ができるか検討してきました。

連絡のとれた修了生からは、命の危険を感じていて退避と保護の協力を求める声が多く、本プロジェクトの実行を決定いたしました。修了生の安全を保護するとともに資金面での援助も実施いたします。

一時的な受入れの目処は立ったとはいえ、ほぼ身一つでの国外への移動となるため、隣国への移動、査証取得、日本への航空運賃など国外退避に関わる費用、日本到着後の広島への移動費や滞在費・食費なども必要で、本国のその後の状況によっては、なかなか帰国できず、日本や第三国での自立・就労支援など、様々な金銭的な援助が必要となると思われます。

一人でも多くの本学修了生を支援するために、皆様からのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



広島大学理事・副学長（国際担当） 金子 慎治

いただいたご寄付でできること

【退避から受入までの流れ】

退避から受け入れまでの流れは以下の通りを想定しています。

- ① 国外へ脱出
- ② 第三国で一時滞在、ビザ申請など
- ③ 日本（広島）へ移動
- ④ 広島大学で受入（6か月）
- ⑤ 日本国内外で就職、定住

まずは、目標金額を100万円とし、上記①～②の隣国への移動費用、査証手配費用などのアフガニスタン国外への退避する活動の支援を行います。

最初の目標金額を達成できれば、その後のご寄付の総額に応じて、上記③～⑤の支援を予定しています。

- 日本への航空運賃：+200万円
- 日本到着後の東京～広島への移動費、滞在費、生活支援費用：+300万円
- 日本や第三国での就労・定住支援費用：+400万円

修了生によって家族構成は異なりますが、合計1,000万円の寄付を得ることができれば、9～10家族に対しての金銭的な支援が可能になります。（1家族あたりおよそ90万円）これは国内で最大級の支援規模になります。（2022年05月 広島大学調べ）



支援者からのメッセージ

東広島市長 高垣 廣徳



「緊急支援プロジェクト」の実施にあたりまして、メッセージをお送りいたします。東広島市は、広島大学をはじめとした学術研究機関が集積しており、留学生や研究者など多くの外国人が居住しており、世界中から集まった多様な言語や文化的背景を持った人々が安心して暮らし、相互に理解し合い、共に個性や能力を活かして活躍できる多文化共生のまちづくりを進めております。本市で学び、世界で活躍されている方々はもとより、世界中の罪なき善良な人々が、戦争や内乱により命の危険にさらされているという事態は非常に痛ましく、「緊急支援プロジェクト」として人道支援に取り組まれる広島大学の活動に対し心から敬意を表します。本市としても、改めてすべての人の人権が尊重され、誰もがその個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現に向けて取り組むとともに、平和の大切さについて認識し、平和行政を推進してまいります。このたびの「緊急支援プロジェクト」を通じ、一人でも多くのアフガニスタンの方々の命が救われるとともに、こうした支援活動が世界へ発信され、一刻も早く世界中のすべての国で安全な生活が実現することを心から願っております。

最後に

多様性を育み自由で平和な国際社会の構築を目指す広島大学では、約15,000人の在学生や約3,000人教職員だけでなく、卒業生や修了生、その保護者の皆様など多くの関係者にアフガニスタン在住の本学修了生への支援を呼びかけてまいります。

それとともに、メインキャンパスのある東広島市、二つのキャンパスや研究施設がある広島市、その両市を擁する広島県など、自治体や東広島や広島に拠点を持つ企業の皆様などからも応援を依頼し、産学官が一丸となって人道的支援を行うよう努力してまいります。

このプロジェクトで多くの支援が得られた場合には、より多くのアフガニスタン在住の修了生を援助できるよう、同様のプロジェクトを行いたいと思います。

プロジェクト実行者

国立大学法人広島大学

広島大学は、本学で学ぶアフガニスタン出身の留学生と連携・協力しながら、事実関係の確認や大学として必要な支援を検討してきました。関係機関との調整が整ってきたので、順次、現地にいる在籍生及び修了生に対し、大学として最大限の支援を行い、必要な対応を迅速に講じ、平和の大学として、平和な国際社会の構築に貢献してまいります。



広島大学

令和 4 年 5 月 20 日

クラウドファンディングにより作成した
「被爆者スライド標本データベース」を公開します

広島大学原爆放射線医科学研究所（原医研）は、2020 年 7～9 月に行いましたクラウドファンディングにより 271 人の方から総額 4,609,000 円のご支援をいただき、「原爆被爆者の記録を後世へ：標本データベース化プロジェクト」を進めてまいりました。

本プロジェクトの一環として作成を進めてきた「広島大学原爆放射線医科学研究所 被爆者スライド標本データベース」を作成しました。被爆者の方の個人情報保護に十分配慮した上で、5 月 20 日から web サイト（URL: <https://rbm.hiroshima-u.ac.jp/>）で無料公開します。

これらは被爆後早期の放射線による人体影響を示しています。原爆が人類に及ぼした「負の遺産」を後世に伝える科学的資料として、研究や平和教育に活用していただければと願っています。

データベースに収載されているのは、原医研が保管する「AFIP 返還資料*」で「被爆初期例」とされている被爆者のうちの 100 人の資料です。死亡後に採取された臓器や組織のスライド標本の中には経年劣化が進んでいるものも多く、最新の技術を用いてデジタル画像化しました。これら画像の一部とともに、医学記録や被爆状況の情報も併せて載せています。また、データベースでは年齢、被爆距離（爆心地からの距離）、被爆場所などから検索および閲覧ができるようにしています。

今後、残りの資料についてもデジタル画像化するほか、正常組織との比較、解説コーナーなど、さらなる充実を図ってまいります。

* AFIP 返還資料

原爆投下直後から行われた医療や調査研究により得られた、貴重な被爆者の記録や標本などは、戦後まもなくアメリカに持ち去られました。AFIP（米軍病理学研究所／The Armed Forces Institute of Pathology）に保管されていたこれらの資料は、1973 年にようやく日本に返却され、広島原爆に関する資料は現在広島大学原医研に保管されています。

【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所
附属被ばく資料調査解析部
助教 杉原清香
TEL:082-257-5877

令和 4 年 5 月 20 日

大学病院にメラノーマ治療センターとゲノム医療センターを新設

広島大学病院は病院内に「メラノーマ治療センター」「ゲノム医療センター」を設置、診療科を横断する本格的な診療活動を始めています。

○メラノーマ治療センター

メラノーマ(悪性黒色腫)は、皮膚の色素をつくるメラノサイトが悪性化したもので、日本人では足の裏や爪に生じやすいがんです。その他の部位の皮膚、眼(結膜、脈絡膜)、口腔粘膜、鼻粘膜、泌尿生殖器などさまざまな臓器にも生じることがあります。このためそれぞれの施設や診療各科で個別に治療されるケースが多くなっています。

近年、メラノーマに対する抗癌剤である免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬の開発により、予後は飛躍的に改善していますが、まだ多くの課題が残されています。このため関係する医療従事者が診療科を超えて連携し、専門知識と臨床技量を結集して治療にあたるためにセンターを設置しました。

これによりメラノーマ診療に関わる医師、歯科医師、看護師等の育成につながることも期待されます。

○ゲノム医療センター

本院は 2019 年にがんゲノム医療拠点病院に指定され、2020 年 1 月には遺伝子診療科を設置、ゲノム医療に対する体制整備を進めてきました。2020 年に遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)の遺伝学的検査やリスク低減手術が保険収載されるなど今後も遺伝子診断を治療に応用する事例が増えていくと予想されます。

この HBOC 以外にもさまざまな遺伝性腫瘍症候群に対して多職種チームで対応するほか、出生前診断のための体制整備、がんゲノム医療が効果を発揮しやすい小児がん拠点病院に指定されていることなどから、さらに高度で先進的ながんゲノム医療を進めるためにセンターを設置しました。

【お問い合わせ先】

大学病院広報・調査担当役 古市
TEL:082-257-5418